

令和 7 年度 柏市 少年補導センター 運営協議会 会議録

1 日時

令和 7 年 5 月 9 日（金）

午後 1 時 5 9 分～午後 3 時 2 9 分

2 場所

柏市役所 沼南庁舎 5 階 5 0 1 会議室

（千葉県柏市大島田 4 8 番地 1）

3 出席者

（1） 委員

小関委員，三浦委員，石井委員，岡本委員，杢富委員，
高橋（裕）委員，荒井委員，門井委員，鈴木委員，高橋
（洋）委員，平委員，田口委員，押味委員，渡辺委員

（2） 事務局

平野学校教育部長，滝少年補導センター所長，麻生同指
導主事，八巻同副主幹

4 議事前の進行

（1） 委嘱状交付

（2） 委員及び事務局職員の紹介

（3） 会長及び副会長の選出

（4） 会長及び副会長のあいさつ

5 議事及び意見交換

（1） 令和 6 年度事業報告

ア 麻生指導主事から，令和 6 年度 柏市 学校警察連絡協議
会 生活実態調査の結果を以下のとおり報告しました。

- ・ 少年補導センターが事務局を務める 柏市 学校警察連
絡協議会では，毎年生活実態調査を行っています。

令和 6 年度の調査は，令和 6 年 1 0 月から 1 2 月に
実施しました。

市内全ての小中高等学校に依頼し，小学校 4 2 校，
中学校 2 6 校，高等学校 1 2 校の計 8 0 校から回答を
得ました。

- ・ 小学 4 年生のスマートフォン所持率は，過去 3 年間

で 36%, 37%, 40%と推移しています。

- ・ 小学6年生は63%, 中学2年生は93%となり、一段と所持率が高くなっています。高校2年生は、ほぼ100%所持が定着しています。

- ・ 携帯電話スマートフォンの所持開始時期について。
小学6年生は、5から6年生という回答が減り、1から4年生という回答が増えています。

中学2年生は、小学6年生から中学1年生という回答が増えています。高校2年生の回答も同様でした。

- ・ 小学校高学年への進級、小学校卒業、中学校入学といったタイミングでスマートフォンの持ち始めが多くなることが分かっています。

この時にデジタル機器の正しい使い方や情報モラルを指導することが、非常に重要です。

- ・ 携帯電話スマートフォンの不所持から人間関係で仲間外れになったことがあるか、の質問について。

小学6年生が7%, 中学2年生が14%, 高校2年生が4%, あると回答しました。状況や場面は、話題について行けない、必要な情報が入ってこないといった内容でした。

- ・ 会ったことのない人とネット上で親しくなったことがあるかの質問について。小学6年生では16%, 中学2年生では19%, 高校2年生では24%が親しくなったことがあると回答しました。

実際に会ったことがあるかの回答は、小学6年生は7%, 中学2年生は18%、高校2年生は42%があったことがあると回答しています。

会ったことを保護者は知っているかの回答は、小学6年生では31%、中学2年生では24%、高校2年生では35%が知っていないと回答しました。

- ・ 保護者が知らないという回答に対しては不安を抱きます。一方、知っている保護者はどういう考えで会うことを許可したのか、危険や不安を感じないのか、事

後報告で知ったのならどのように感じるのか、とても気になります。

- ・ ネット上で親しくなり会った相手の年齢は、同年代との回答が多いのですが、自分の年齢よりも上の年代と会っている回答もあります。
- ・ 会った理由は、友達の友達である、遊んでみたいと思った、という回答が多くありました。

自由記述の内容を見ると、趣味やゲーム、ライブやイベント、いわゆる推し活する中での約束という回答が挙げられていました。

- ・ 実際に会ってみてどうだったかは、良かったとの回答が小学6年生が74%、中学2年生が78%、高校2年生が81%ありました。

嫌な思いや不快な思いをしたという回答は、小学6年生が3%、中学2年生が1%、高校2年生が1%いて、いずれも人数は1人でした。

- ・ 会って良かった理由として、友達が増えた、色々話せた、推しが同じで盛り上がった、との回答が多くありました。

一方、1人じゃなくなった、という日常の学校での人間関係とは違った繋がりを求めている、と捉えられる回答もありました。

- ・ 嫌な思いや不快な思いをした理由として、相手が不潔だった、自分の話を聞いていない、との記述がありました。

- ・ SNS利用による人と人との繋がりでは、トラブルや犯罪に巻き込まれる、闇バイトや特殊詐欺に意図せず加担してしまう、といった懸念があります。

ネット上の関係はリアルな世界よりも見えにくく、状況把握が非常に難しいという特徴があります。

- ・ また、ネット上で薬物等の有害な情報に触れ、非行に発展することが考えられます。

非行は、繁華街や路上で起きているものとネットが

関係するものの両方に対応が必要と感じています。

- ・ 生活実態調査は毎年度実施しており，貴重なデータとして今後も青少年の健全育成、非行防止、情報モラルの指導等に活用していきます。

イ 麻生指導主事から，令和６年度に少年補導センターが行った補導，相談，啓発及びサイバーパトロールの実施結果を以下の通り報告しました。

- ・ 補導は，柏駅東口周辺を中心に年間３３６回実施しました。

補導少年数は４４７名で，前年度の３６４名と比べて８３名増加しました。補導対象行為は，退学１９５件，喫煙７６件です。喫煙は直近１０年で最多となりました。

- ・ 補導対象行為を年齢別に見ると，高校生が高い割合を占めています。また１４歳未満は，小学生だけのゲームセンター入店がほとんどです。
- ・ 行為場所別では，路上，ゲームセンター，柏駅周辺が多い場所です。居住地域別では，県内各地から青少年が来ていることが分かります。
- ・ 月別では，１０月，１１月，３月の件数が多い状況です。
- ・ 例年秋頃から，進路が決定した高校生の遅刻が増加する傾向があります。
- ・ 少年補導委員は，柏市少年補導委員連絡協議会の会員として，各中学校区を単位とした補導活動も行っており，令和６年度は延べ３２４回実施したとの報告が挙がっています。
- ・ 相談活動では，やまびこ電話柏が前年度から２１件減の１５８件，少年相談が前年度から４５件増の１２６件となりました。
- ・ 令和６年度は，少年相談で対面かつ継続を積極的に行いました。
- ・ 啓発講演は，情報モラルや薬物乱用防止等の内容を

中心に 107 回実施しました。学校から依頼を受けた際は、要望に応じて学年別、学級別又はオンラインで講演しています。

- ・ 題材として、身近で起きた事例や報道等で取り上げられた内容を紹介したり、柏市学校警察連絡協議会の生活実態調査結果を使用しています。
- ・ サイバーパトロールについては、レベル 1 に分類される個人をほぼ特定できる登録アカウントは、市内小中高校生のものとして 931 件を把握しました。

レベル 2 に該当する誹謗中傷や違法行為の書き込みは 4 件を発見し、当該校に連絡して指導改善を図りました。

ウ イに対する質問等は次のとおりです。

- ・ 高橋洋子委員の質問
保護者を対象としたアンケートは実施していないのですか。
- ・ 麻生指導主事の回答
生活実態調査は児童生徒を対象に行っています。保護者からも回答を得られれば一番良いと思っていますが、今の実施方法では無理です。
- ・ 高橋（洋）委員の意見
何か事件が起きてから、関連する項目を保護者に対して実態調査することになると、後手後手になる感があります。もし出来るなら早めにアンケートを実施して欲しいと思います。保護者会の機会にとか。
- ・ 麻生指導主事の回答
貴重な意見として、何か工夫できることはないか考えていきます。
- ・ 荒井委員の質問
学警連の資料で、ネット上で親しくなった人と実際に会ったことがあるのが 42% という割合の高さに驚いています。さらに、会った人たちは概ね 7 割 8 割会って良かったと回答していることにも。

会った理由を見た時に、関係団体の立場で青少年の居場所づくりに取り組んでいた経験から、心のレスキューを求めているのではないかと感じました。

これについて教育委員会や少年補導センターとしてはどうとらえているのでしょうか。

- ・ 八巻副主幹の回答

青少年の居場所づくりは所管部署が生涯学習課になります。そういうところにどうやって繋げていくかというのは、正直なところ少年補導センターとしてはまだこれからの取り組みであると思います。

現状把握で実際に悪い行動があった場合は当所が対応していますけれども、そうでない場合はそこから先（居場所の提供等）に進められていないのが、今の実態です。

関係各課とお話をして繋げるということは良いことだと思いますので、考えていく予定です。

- ・ 平野学校教育部長の回答

大変貴重なご意見ありがとうございます。

今あった荒井委員からの件は、居場所という話になると、他の部署との連携が必要になります。

（学校教育部では）SNS相談としてスタンドバイというものがあり、早くに「困っています」や「助けて」のメッセージをこちらがキャッチ出来る取り組みをしています。

空間として居場所も大事なのですが、それ以外にも子供達の声を早期にキャッチする、という（別の大事な）取り組みを教育委員会はしているとご理解ください。

また、高橋委員のご質問に関しては、実際に保護者に聞かなくてもそれに近い内容を子供達から聴取することは出来ると思います。

例えばご質問いただいた、保護者は（子供達がネット上で親しくなった人と会っていることを）知ってい

ますかという点では、まず知っている知らないという回答を子供達がしている（ところから考えます）。

知らないというのは多分言っていないことだと思うので、では何で保護者にそれを言わなかったのか、とさらに質問すると、その子供の考え（や親子関係が）見えてきます。

知っているというのは自分で言ったということだと思うので、ではその時保護者はどんなことを言っていましたかとさらに聞くことで、（何を問題視しているか）保護者の考えの一端を知ることができます。そういうことを考えつつやっていきたいと思います。

- ・ 高橋洋子委員の意見

ありがとうございます。子供が会いに行くにあたって、親への報告が事前か事後かの違いは気になっていて、事件が発生して手遅れとなる可能性があるのでお聞きしました。

- ・ 平野学校教育部長の補足説明

少年補導センターとしては、そこが一番力を入れている部分です。啓発講演の中では、SNSの活用と危険を色々な形で伝えています。

子供達に話したところで、保護者と関係が悪い場合には事件に行きつく可能性があると思いますが、まずはしっかりと伝えて頭に入れてもらおうという考えでやっていくつもりです。

SNSだけではなく自傷行為やオーバードーズ（過剰服薬）等も該当すると思うのですが、その危険性が子供にはよく分からなくて、聞いて何か自分もやってみようかと思ってしまうことがあります。

先程、心のレスキューという言葉が出たように、寂しいとか自分が認められていないとか居場所がないとか、色々なことを多分子供達は抱えているがための行動だと思います。

そのような子供の声を聞くことを、スタンドバイを

始めとした（やり方により）教育委員会の方で，また実際に話を聞くことを学校の方で出来ればより望ましいと思うので，やっていきます。

- ・ 渡辺委員の意見

私は去年まで麻生指導主事と同様の仕事をやっており，保護者向けの啓発講演を担当していました。

一番に言うのは，何がワクチンかということです。保護者向けの啓発講演を多くやればやっただけの効果があって，大事なのは保護者と子供の会話です。

S N S やネットを通して入ってくる情報を，子供達は信じます。大人は疑ってかかります。

推し活という言葉が出ましたが，その中で子供達は共通の趣味を持って同じ考え方をします。何を言っているても全てが本当と思っています。

それは違うという話をして，疑う意義を伝え，困った時に S O S を出せる相手は親しかいない言います。

だから，親子関係をどうやって作るかということを目標の中心に，保護者会や生徒向けに講演する場でお話しています。それしか対策はありません。

- ・ 高橋（洋）委員の意見

保護司をやっていてしばしば感じるのは，保護対象となった子供に親子関係の確執があることです。

それで子供は寂しくて，学校に行かなかったり，万引きを軽い気持ちでやったり（友達が楽しそうにやっていたからと言って），そこから非行に入っていく。

私の受け持っている子供で，未成年だが学校に行っておらず，この前も東京駅で飲酒していたのを補導しましたという連絡を受けました。その子供は（親子関係が上手くいかず居づらいので）家に帰らないのですね。親子関係はすごく大事です。

エ 議長から，以上で令和 6 年度事業報告を承認して良いか発議があり，全会一致で承認されました。

（２） 令和 7 年度事業計画

ア 滝所長から，令和 7 年度事業計画として活動の方針及び内容を以下の通り説明しました。

- ・ 活動の方針として，少年補導センターは，青少年の健全な育成を期し，少年の補導活動を総合的に推進するための拠点です。補導活動，相談活動，環境浄化活動，広報啓発活動を積極的に展開し，非行の未然防止に努めます。また，関係団体及び関係機関と連携しながら，地域ぐるみの非行防止活動の推進を図ります。

- ・ 活動の内容として，重点項目を中心に説明します。
（令和 7 年度柏市少年補導センター活動要覧の 5 ページにある）1 の補導活動の充実については，問題行動を早期発見及び早期補導するべく，毎日地道に補導活動を行っています。今年度の重点項目です。

- ・ 当センター職員と少年補導委員で行う柏駅前の街頭補導は，水曜日を除く週 4 回の午前，午後又は薄暮に実施しています。月 3 回の夜間も実施しています。

- ・ 平成 20 年度以降では，平成 22 年度の 1,375 件をピークに平成 27 年度には 198 件まで減少していました。

その後は平成 28 年度は 246 件，平成 29 年度は 271 件と一時的な増加が見られ，平成 30 年度は 239 件と再び減少に転じました。

さらに令和元年度から令和 5 年度までは年間 300 件台，令和 6 年度は 447 件となりました。

- ・ 柏駅周辺の店舗やゲームセンターの雰囲気は，以前とは違ってきています。

柏駅東口の再開発等で，柏駅周辺の景色が変わり，子供達の動きや流れが新たなものになることが想定されます。

引き続き関係機関との情報共有を図りながら，地道に愛のひと声をかける活動を行っていきます。

- ・ その他の地域では中学校区単位で，少年補導委員が（柏市少年補導委員連絡協議会の会員として）地域の

実情に応じた補導活動を行っています。

今後も同会と連携し，地域行事等に合わせて，子供達を見守る活動を行っていきます。

- ・ さらに特別補導として，卒業式での見守り，柏市学校警察連絡協議会と連携して夏休み及び冬休みに柏駅前を巡回します。補導中に問題事案が発生した際は，学校等へ迅速に通報します。
- ・ 2の相談活動の充実も，今年度の重点項目としています。

温かい心で適切な指導と助言に努め，スマホやSNS，ネットでの被害やトラブルの相談に，丁寧に対応します。

相談者の主訴を的確に捉え，電話相談を基本としつつも相談者や対象者の状況に応じて，対面相談を定期的に実施することや関係機関に繋ぐことも行っていきます。

- ・ 3の関係団体・関係機関との連携強化については，少年補導センターは（柏市学校警察連絡協議会と柏市少年補導委員連絡協議会という）二つの協議会の事務局を担当しています。

会員である柏警察署や柏児童相談所といった様々な関係機関の協力を得ながら，担当者の顔が見える，横の繋がりを大切にしたい，多角的対応に努めることで，青少年の非行防止と問題解決を図ります。

- ・ 4の研修の充実については，柏市少年補導委員連絡協議会からの依頼で，総会に合わせて，「少年補導センターから見える子供たち」という主題で研修会を実施し，スマホの利用実態を中心に説明しました。

柏市学校警察連絡協議会においては，今年度も視察研修や情報交換会を予定しています。

方法としてここ数年はオンラインで情報交換を行っていましたが，対面を再開することで学校・地域・子供の間でお互いの顔が見えて安心出来る関係を再構築

し、子供達への指導効果を高めることを狙います。

また、センター職員の資質向上にも努めます。青少年が利用するSNS等については、利用者の秘匿性が年を追う毎に高まっており、問題ある書き込みの特定が困難であるケースが見られます。

令和3年度に着手した事例研修を今後も継続し、スキルの高度化、標準化を図ります。

- ・ 5の環境浄化活動推進については、補導活動を行う中で、有害環境について実態把握に努めます。

また、ゲームセンター等の協力を頂きながらの溜まり場等健全化、有害なチラシ等撤去に係る地域への協力、裏路地に改造車両放置や落書きが散見された場合の交番等への情報共有と巡回依頼も行っています。

環境悪化やその常態化は非行行為の誘発となることが懸念されますので、環境浄化に努めます。

- ・ 6の広報啓発活動の推進については、昨年度は、児童生徒、PTAや教職員、地域団体等を対象に107回の啓発活動を行いました。

SNSの利用による人との繋がりでは、リアルな世界での不安からバーチャルな世界に精神の安定を求め、承認欲求を満たそうとする青少年の実態が見られます。

本来は必要だった繋がりの中で、知らないうちに犯罪被害に遭ってしまったり闇バイトや特殊詐欺等に加担してしまう、といったことが考えられます。

また近年は、脳科学的な視点からの啓発活動も進めています。スマホを過剰に利用することで脳の発達に悪影響がある、という内容です。

様々な分野でデジタル化が推進されている現実があるため、引き続きネットトラブル被害防止のための情報モラル講演や薬物乱用防止講演を実施します。

もうひとつの広報活動では、センターだより「すこやかに」を毎月配付しています。毎月の補導や啓発の

状況等については、今後も情報発信していきます。

現行の紙媒体発信は長年継続しているところですが、柏市公式 X（旧ツイッター）の少年補導センターアカウントからも発信しており、時代に即した情報発信方式となるよう、今後も検討していきます。

- ・ 7 の情報収集及び資料の整理と活用については、活動で得た情報及び関係者からの情報を収集整理し、必要に外部に提供していきます。

不審者情報等も共有し、子供達の地域での見守りに繋げていきたいと考えています。

サイバーパトロールについては、今年度も継続して実施します。使われる SNS の流行も変化していることから、最近の動向を探りつつ実施方法を常時検討していきます。

SNS への書き込み、画像、動画で、不適切、違法行為、被害の可能性が考えられるものについては、学校への通報を迅速に行い、問題行動やトラブル等の未然防止、問題解決につなげていきます。

ウ イに対する質問等は次のとおりです。

- ・ 荒井委員からの質問

一番最初の補導件数の表のところで、喫煙が増えているというのはわかったのですが、その他の行為が平成 27 年度と比べて 130 件増えています。その他とは一体何が増えているのでしょうか。

- ・ 麻生指導主事の回答

その他は、小学生だけでゲームセンターに入店しているのがほぼ全ての件数と捉えて下さい。

- ・ 田口委員からの質問

SNS の不適切な書き込みというのがあるんですけども、主に X（旧ツイッター）なのではないでしょうか。また、その洗い出し方法っていうのはどのようにしているのか教えて下さい。

- ・ 麻生指導主事の回答

サイバーパトロールでは、X（旧ツイッター）を中心にしています。

最近の子供達の使い方が、個人情報を出さないようにと言いましょいか、かなり伏せた状態で載せていますので、なかなか今の状況を把握しづらいところがあります。

なお、捜査権限はないので、パトロールしていることを隠して潜入していくことは出来ません。誰でも見られる範囲で検索用語を工夫する等しています。

また、昨年度あたりから増やしているのが、グーグルマップの口コミ機能という自由に書き込みが出来る場所のパトロールです。批判的内容や個人を中傷する内容、不適切な写真が投稿されているケースがあるためです。

エ 議長から、以上で令和7年度事業計画を承認して良いか発議があり、全会一致で承認されました。

6 その他事項

（1）最近の非行傾向

ア 麻生指導主事から、最近の非行傾向で少年補導センターとして注目している点を以下のとおり説明しました。

- ・ 柏駅周辺で行っている街頭補導の昨年度における特徴として、喫煙件数の増加と中学生の喫煙が挙げられます。
- ・ また、巡回コース上で気になる箇所があります。柏スカイプラザの2階入口及びその奥です。
- ・ 私が出勤する際、煙草の吸い殻等のゴミが散乱している状況を目にしています。

奥にはコインロッカー、その手前には少し空間があり、令和6年10月から翌年2月の頃まで、ここに青少年だけではなく社会人も含めて溜まっている様子が見られました。

- ・ また二番街に入ってドン・キホーテとデイワンタワーの間も気になる箇所です。

この場所については，SNS上で柏にいわゆる「ト一横」（新宿区歌舞伎町の東宝ビル横）を作ろうという動きがありました。

- ・ 音頭を取っているのは女の子で，おそらく柏在住ではありません。この子のX（旧ツイッター）を見るとオーバードーズ（過剰服薬）をしているようで，不安定な様子が見て取れました。また，柏だけではなく池袋，大宮，横浜にも発生している「ト一横」に姿を出していることも分かりました。

この子が挙げている画像で実際にデイワンタワーに来ている時の様子をお見せしています。右下にあるものはこの子の別アカウントです。そこには死にたいというメッセージを連発して発信しており，すごく不安定な子ということが把握出来ました。

別の子で，おそらく柏市内中学生のX（旧ツイッター）のアカウントです。この子もオーバードーズ（過剰服薬）をしていそうな様子が見られました。柏の界隈の管理人をやっていると，Xで発信していました。

- ・ 別の話題です。卒業式の午後に柏駅東口を巡回していたところ，刺繍の入った特攻服を着て歩いている中学生が1人だけいました。ちょっと懐かしい感じもしました。また子供達の流れとしてこういったのが少しずつ出ていると感じています。
- ・ 平成20年代の中頃ですと，同じように中学校の卒業式が終わると柏駅東口に，柏市の子だけではなくて東葛地区管内の子供達が集まってくるというのがありました。
- ・ 子供達の健全育成や非行防止とスマホについては，切っても切り離せない状況にあると思います。

いろんなデジタル機器の利用に関しては，やはり意見の分かれるところがあります。

早いうちに教えた方が良いという意見も，なるべく遅い方が良いという意見もあります。

私は、目的を持ってきちんと使うことが大事だと思います。便利な面や役立つ点が沢山ありますがリスク面をきちんと知っておいた上で使う、そしてきちんと自己管理能力を育てることがすごく大事だと思います。

- デジタル機器を使いすぎると健康面への影響ということで、依存症の問題が心配です。

平成25年に厚生労働省が初めて全国的な調査をした結果、51万人にネット依存が疑われました。その5年後に同じ調査をしたら93万人ということですのでいペースで増えてることがわかります。

- 同じ調査は今行われておりませんが、別の調査では今は中高生の4人に1人は依存症ではないかという報告もあります。
- このネット依存やゲーム依存に関しては、診断が難しいと言われています。ここまでは大丈夫これ以上は駄目というのがはっきりしていません。ポイントになるのは、社会生活をきちんと送れているかです。
- 細かい話として、オンラインゲームに関しては世界保健機関が2019年に国際疾病分類に加えていますので、精神衛生疾患と扱われてオンラインゲーム依存で診断名がつきます。

一方、動画の見過ぎ、SNSのやりすぎ、サイトの見すぎ、スマホの使いすぎ、だけでは診断名はつきません。慣例的に、スマホ依存、ネット依存、SNS依存という言葉を使っています。

- マズローの欲求5段階説では、人間の欲求を5段階の構造で示し、人間は下位の欲求が満たされると次に上位の要求を満たそうとします。
- オンラインゲームはこの構造に当てはまると言われています。特に戦闘系のゲームです。

ゲーム初心者はすぐゲームオーバーになります。まずは生き残ることが大事なので、始めに生理的欲求を満たそうとします。

生き残ると、プレイを続けられるように、今度は安全欲求を求めます。それが満たされると次はどこかのチームに所属したいという社会的欲求を満たそうとします。

そのうちにゲームのスキルが上がっていくと、周りから認められることで承認欲求が満たされ、英雄みたいな扱いをされます。

加えて課金等をして強いアイテムを買うことが容易に出来るようになると、自己実現欲求つまり理想の自分になることが出来るわけです。

- 今のオンラインゲームには終わりがありません。昔のカセット型のゲームは必ずクリアしてエンディングがありました。今は必ず次のステージがありますので終わりがなく、どんどんはまっていってしまいます。
- 続いて医療的な視点からの説明です。ネットゲームやスマホを使いすぎてしまうと、脳機能への影響があるとされています。
- 脳の役割は場所によって変わってきます。前頭前野という場所が非常に重要とされています。丁度おでこの後ろ辺りにあります。理性を司る場所です。

人間が人間らしい活動をする、脳の中の脳とされています。

通常は前頭前野が優勢で働くのですが、オンラインゲームや動画を見過ぎたりスマホを使い過ぎたりすると、大脳辺縁系という本能や感情を司る場所の活動が優勢になるとされています。

- こちらの書籍は脳科学者の方が書いたものです。スマホを利用し過ぎることで脳の発達にどんな影響があるか、そんな研究が進んでいます。

また、スマホはどこまで脳を壊すかという書籍があります。東北大学の加齢医学研究所応用認知神経科学センターの榊康平先生が書かれた本です。

この先生を、昨年度に教職員向けの研修会にお呼び

してご講演いただきました。

- この先生から許可をいただいたので、扱っているデータをご覧いただきたいと思います。

スマホの利用時間と学習成績の関係についてのグラフです（三次元縦棒グラフ）。グラフの横軸が勉強時間です。右に行くほど勉強時間が長いです。

グラフ奥に向かって睡眠時間です。奥に行くほど睡眠時間が長いです。

（グラフ縦軸は成績で、ある勉強時間とある睡眠時間の組み合わせに該当する人の点数を高さで示しています。）

縦棒は白と黒に分かれています。白は成績が平均に届いていない、黒は成績が平均を上回っていることを示しています。

- 左側のグラフがスマホをあまり使わない1時間未満のグループです。学習時間と睡眠時間をきちんと取っていると、全体的に成績が高いことがわかります。
- 右側のグラフはスマホの使用時間が1時間から2時間のグループです。少し、平均値に届いてる縦棒が減ります。
- さらに2時間から3時間のグループになると、グラフの様相が一気に変わってきます。
- 右側のグラフ、こちらスマホの利用時間3時間以上のグループです。勉強時間や睡眠時間をとっても平均に届いていないことがわかったそうです。
- 3時間以上というヘビーユーザーと思いたいところですが、5時間6時間使っている子が中にはいると思います。
- 同じく榊先生から頂いた画像です。ネットを過剰に使用することで、脳の発達に悪影響があった場所を示しています。黒く影になっている部分が発達に悪影響があった場所です。

大脳の約3分の1の領域に悪影響があったとわかる

ということです。前頭前野を中心に，言語とか記憶とか，相手のことを思いやるとかコミュニケーションをとるとか，そういう大事な場所に悪影響があることがわかったそうです。

これらは3年間の追跡で分かった領域です。例えるなら，中学校入学時からインターネットを過剰に使い過ぎると，中学校卒業時点で今黒く影になっている部分が成長しないまま卒業していくということです。

- ・こちら，アメリカの精神科医でダンクリー博士という方が，スクリーンタイム（スマホ画面を閲覧操作している時間）が脳を壊すということで，デジタルスクリーン症候群という言葉を提唱しています。

スクリーンタイムで色々な脳へのダメージが起き，最終的に様々な悪い症状障害が現れてしまうと言っています。

- ・学警連のアンケートでは，スクリーンタイムについても質問しています。こちらは小学校6年生のスクリーンタイムについての回答結果です。中学校2年生，高校2年生についての回答もあります。

休日になりますと，やはり4時間以上という回答が一気に増えてきます。

こちらの資料をご提供いただいたのが，スマホ依存防止学会で活動をされている磯村先生です。

磯村先生は愛知県のお医者さんです。呼吸器科の先生なんですけれども，今スマホについても研究活動されています。

- ・前頭前野については，人間だけが動物の中でもすごく発達する場所だと言われています。

やはりスマホゲームを使いすぎることによって，脳の機能が下がってしまう，脳の構造そのものも変化してしまうと言われています。

- ・こちら（の画像）は脳の活動を示しています。左側がリアルで何か活動している時で，右側がオンライン

を中心にネットを使っている時を示しています。

リアルで何かしている時の方が，前頭前野を中心に脳の活動が良いということが分かります。

- ・ こちらも脳の画像です。何を示してるかと言いますと，ネット依存で脳繊維が損傷してる場所を示しています。赤くなっている部分です。

脳繊維は，脳神経細胞をつなぐ電線のような役割をしています。

脳繊維が沢山枝分かれしたり太くなっていくと，活動が良いということが分かっています。ネット依存で損傷してる場所は，コカイン依存や薬物依存と同じだそうです。

- ・ 依存症については，回復はあるが治癒はないと言われていています。一度覚えてしまうとその神経回路がずっと残ったままになってしまいます。例を出すと，たばこが分かりやすいと思います。

一度たばこを吸うと，また吸いたいという神経回路が出来てしまいます。禁煙してたばこを吸わない状態を続けたとしても，一度たばこを吸うとまた吸いたくなってしまうのです。

なぜかというところ、一度出来た神経回路はなくならないからです。ネット依存も同じ仕組みだと言われていています。

- ・ 今の医療現場では，スマホは危険な依存性物質だと言われているそうです。

依存性物質というとアルコールや薬物みたいに体内に入れるものをイメージしますが，画面を見て操作するスマホも同じ様な依存性物質だということです。

- ・ （依存性物質が原因で）色々な脳内の神経伝達物質がきちんと分泌されず枯渇したり過剰に分泌され，脳内のバランスが崩れてしまって体調不良が起きると言われています。
- ・ それから，脳の活動としてデフォルトモードネット

ワークという状態があります。

実は人間は何もしないボーっとする時間も大事だと言われています。その時間には頭の中がデフォルトモードネットワークになって、普段日常で勉強したり活動して入ってきた色々な情報がきちんと整理整頓され要らない情報は捨てられ、頭の中が綺麗になります。

- ・ しかし勉強や仕事の休憩時間にスマホを見てしまうと、このデフォルトモードネットワークにならないと言われています。光刺激が強いんですね。

そうすると、頭の中が整理整頓されずごみ屋敷状態になってしまいます。結果、きちんと情報を出力出来ない、認知症のリスクが高まると言われています。

- ・ 眼科医が書いた書籍に、目の不調を訴えて眼科にかかる小中高校生が非常に多いとありました。急性の内斜視で手術を受けるような子も多いそうです。

この書籍には、2050年辺りには全世界の2人に1人が軽度の近視、10人に1人が強度の近視になるのではないかと、という研究報告も載っています。

- ・ ちょっと心配しているのが、高校生を中心に利用者が増えていると言われている新しいSNSに共通している、位置情報機能を使ったアプリです。

今あいつ近くにいるからちょっと連絡とってみようかといった使い方がされます。ただ、好きな子の自宅の位置を見つけ出すという悪い使い方も出来ます。

- ・ 青少年の非行について、街頭や路地裏に溜まっている様子が見られなくなりました。

なぜかという溜まる必要がないからです。皆スマホを持ってるので、SNSやオンラインゲーム上を待ち合わせ場所にして溜まる事が出来ます。

- ・ 非行がネット型に変わったと、我々は認識しています。スマホがない時代は、特定の場所に行かなければ非行の少年少女や犯罪者と関わったり接触することがあまりなかったかと思います。

しかし今は、スマホを持ってSNSやオンラインゲームをやることで、どこでどうつながるか分かりません。普通の子もあっという間に繋がってしまう危険があり、とても怖いことだと思います。

メッセージアプリを使って人数が参加している巨大なグループがあったとすると、普段は顔を合わせなくても連絡を取り合って、集まりたい時にパッと集まる事が出来るのです。

- ・ 闇バイトに関しては、中学生にも啓発でお話する機会があり、昨年度も何回か呼ばれて講演しました。細かい資料を呼ばれた時には見せ、この辺をキーワードに気をつけてくださいね、と指導しています。
- ・ そして、トラブルにもしあった時はすぐ相談してくださいと、子供達に話をしています。友達、家族、先生、それからきちんとした相談機関に。間違ってもSNS、オンラインゲームで知り合った顔の見えない人には相談しないでください、と言っています。
- ・ 教育委員会が提供している相談アプリをベースとして、あくまでも知らない人には相談しないでと啓発しています（責任ある返答をする保証がないため）。

それから、もし被害に遭った場合にはスクリーンショットで証拠を残すとか、削除依頼を出すとか、色々なブロック機能といったネット上のサービスを使うように指導しています。以上で説明を終わります。

イ アに対する質問等はありませんでした。

(2) 意見交換

- ・ 渡辺委員の質問

この間久しぶりに柏に来て、金曜日の夕方にビックカメラの前を通ると、警備員らしき人を何名か見ました。

ダブルデッキ上、ビックカメラ前、マルイ前といった「溜まる場所」は分かっていると思います。そこを柏市で見回りを始めたのかと思いますが、どうなのでしょう。

- ・ 八巻副主幹の回答

私どもの方に事前に入っている情報として，見回りを始めましたという内容は届いていません。

もし実施するとすれば防災安全課かとは思っていますので，そこにお尋ねすることになろうかと思います。

- ・ 渡辺委員の意見

日本ガーディアンエンジェルス柏支部の方もいたように思います。金曜日の夕方に見回るようにしているのでしたら，願ってもないことです。

- ・ 小関委員の情報提供

ここでお話しているのは柏市レベルの話なんですけれど，昨日県警本部からのメールに興味深い数字が出ていましたのでご紹介します。県下の数字となります。

まず犯罪少年，刑罰法令に触れる行為をした少年の人数です。県には47署あるので，上位3署を紹介したいと思います。データは4月末現在です。

第3位が茂原警察署で21人，第2位は船橋東警察署で38人，第1位は柏警察署で46人です。第3位の2倍となっています。

次に補導少年の人数です。具体的内容は喫煙，深夜徘徊，退学等です。内訳の数字はなく合計人数です

第3位が八千代警察署201人，第2位が市川警察署268人，第1位は柏警察署478人。これも第3位の2倍強です。

因みに隣の松戸市の数字を見ますと，松戸警察署と松戸東警察署の合計人数ですが，犯罪少年が14人，補導少年が350人。よって，柏市はそういう少年が多いと分かります。

私は30年前に一度柏警察署に勤務してしまして，今回で2回目になります。

当時は平成4年，柏は松戸と比べて治安的にあまり良くないイメージがありました。

私が去年の秋にまた着任して思ったことが，110番

の件数が柏はすごく多いのです。これは都内の池袋警察署の件数に匹敵します。

ということで柏警察署の署員はかなり人数が多く、さらに機動隊を入れたりで今は500人以上です。

6 傍聴者

なし

7 配付資料

- (1) 次第
- (2) 委員及び事務局員名簿
- (3) 令和6年度年度事業報告の説明資料
- (4) 令和7年度事業計画の説明資料
- (5) 令和7年度柏市少年補導センター活動要覧
- (6) 少年補導センターだより「すこやかに」令和7年4月号，令和7年5月号